

2009 年9月14 日プレスリリース

参照番号：1245

<http://www.iso.org/iso/pressrelease.htm?refid=Ref1245>

## 社会的責任に関する規格 ISO 26000 の国際規格原案が公表される

国際規格 ISO 26000 社会的責任に関する手引は、国際規格原案(DIS)が公表され、開発の重要な段階に到達した。

ISO の各国メンバー機関が投票することができ、また規格案に対してコメントを提出することができる 5 カ月の投票期間（2009 年 9 月 14 日から 2010 年 2 月 14 日まで）が始まった。参加しているリエゾン組織もコメントを提出することができる。提出されたコメントは、ISO 26000 を開発している社会的責任に関する ISO 作業部会（ISO/WG SR）の次回会合（2010 年 5 月開催予定）で検討される。DIS 投票で可決されると、最終的な修正を加えた文書が、最終国際規格原案（FDIS）として ISO メンバーに回付される。投票が可決されれば、ISO 26000 は、2010 年末に国際規格として発行される予定である。

ISO 26000 は、主要なステークホルダーグループを代表する専門家の間で得られた国際的なコンセンサスを基礎とする調和のとれた手引をグローバルに提供し、社会的責任におけるベストプラクティスの実現を世界中に促進する。

この規格原案の序文は、ISO 26000 について次のような主要メッセージを含んでいる。

- ISO26000 は、社会的責任の基本となる原則、社会的責任に関係する中核主題及び課題及び既存の組織の戦略、システム、慣行、プロセスに、社会的に責任ある行動を取り入れる方法に関する手引を提供する。
- ISO26000 は、組織の大小を問わず、先進国及び途上国のどちらで活動するかを問わず、民間、公的及び非営利のあらゆる種類の組織にとって有用であることを意図している。
- ISO26000 は、マネジメントシステム規格ではない。この国際規格は、認証目的、又は規制若しくは契約のために使用することを意図したものではなく、それらに適切なものでもない。
- ISO26000 は、各組織の社会的責任の理解及び導入の程度はさまざまであることを認識して、社会的責任の課題に取り組み始めた組織、また、より責任を持って実行している組織にも活用できるように意図されている。

ISO/WG SR は、ブラジル(ABNT)及びスウェーデン(SIS)の ISO メンバーが共同でリーダーシップをとり、91 カ国と 42 のリエゾン組織が参加している。6 つの主要ステークホルダーグループ（産業界、政府、労働者、消費者、NGO、及びサービス、サポート、研究などの部門）が地理的及び性別のバランスを考慮しつつ代表者を派遣して参加している。

ISO 26000 の手引は、公的機関及び民間企業の既存の SR イニシアティブによって開発されたベストプラクティスを利用している。これは、国連及びその専門機関（特に国際労働機関(ILO)）による関連の宣言並びに協定と一致し、これらを補完する。ISO は、ILO の国際労働基準との一貫性を確保するために、ILO との間で覚書(MoU)を締結した。ISO はさらに、ISO 26000 の開発協力を強化するために、国連グローバルコンパクト事務局(UNGCO)及び経済協力開発機構(OECD)とも MoU を締結した。

- ISO 26000 及び社会的責任に関する ISO 作業部会の詳細については、専用の Web サイト [www.iso.org/sr](http://www.iso.org/sr) を参照してください。この Web サイトには、ISO の SR イニシアティブの背景について説明した文書、作業の進捗状況及び実施方法に関する文書及びプレスリリース、WG SR のメンバーシップ及び構成、ISO 26000 の開発に参加する方法、ニュースレター、開発スケジュール、FAQ、問い合わせ先などの情報が掲載されています。これらの情報の多くは、複数の言語で入手することができます。
- DIS を含む作業文書は、[www.iso.org/wgsr](http://www.iso.org/wgsr) で入手することができます。